

■**畠山重忠** 武将。源頼朝の有力御家人。剛勇廉直の典型的鎌倉武士と称賛されたが、頼朝没に北条氏陰謀で滅亡。

はたけやましげただ
・・・・・・・・1164=

武蔵国男裏郡畠山郷で、三浦介義明の女を母に、**武蔵国で最強の武士団を擁した秩父一族の嫡流を継いだ畠山庄司重能の次男に生まれる。**

清盛太政大臣1167= 3歳：

・・・・・・・・1173= **9歳**：

源氏一斉蜂起1180=16歳：*源頼朝が挙兵したとき権父一族の主流たる畠山・河越・江戸の諸氏は平氏方に立ち、反頼朝の行動をとった。当時、畠山重能とその弟小山田有重が在京中であったため、嫡子重忠はわずか16歳で一族の軍事行動の中枢に立ち、大庭景親に応じて行動を起し、軍勢を率いて石橋山の戦場に向かった。重忠の軍勢は合戦に間に合わなかったが、たまたま頼朝に加勢しようとして豪雨に妨げられ本拠地に引き返して行く三浦一族の軍勢と遭遇し、鎌倉由比ヶ浜で激戦を交えた。この合戦は互いに多くの死傷者を出したが勝敗を決することなく、重忠軍はいったん退き河越重頼・江戸重長らとともに三浦氏の本拠衣笠城を攻撃して陥れ、三浦義明を自害させた。しかし、再挙をはかった源頼朝が上総・下総の在地武士を糾合して武蔵国に入ろうとしたとき、重忠は秩父一族の人々とともに頼朝のもとに参向し、ここに鎌倉御家人となる端緒が開けた。頼朝が鎌倉入りしたとき、重忠が先陣を務めている。そのころ重忠が恒常的に率いていた軍勢は約5百騎であったという。以後数年にわたる平氏討滅の戦いの間、各地に転戦し武功をあげ、

・・・・・・・・1182=**18歳**：

・・・・・・・・1184=20歳：源義経・範頼率いる木曾義仲追討軍では宇治川の先陣争いで、馬を背負って斜面を降るなど、剛勇ぶりを発揮し、義仲軍を破って後、白河法皇に拝謁。

平氏滅亡・・1185=21歳：*義経に従い屋島合戦・壇ノ浦合戦に参戦して平氏を滅亡に追い込む。こうして鎌倉御家人としての地歩を築いた重忠は鎌倉の「幕府の南御門」の門前に邸宅を構え、また本領畠山の地の東南約10町の比企郡菅谷の地を所領として与えられ、そこに新しく館を構えた。彼は戦功の恩賞として各地に多くの所領を与えられた。重忠は武勇にすぐれたばかりでなく、音楽的才能にもすぐれ、頼朝は重忠の歌舞の才能をも深く愛した。

九条兼実摂政1186=22歳：

藤原秀衡没・1187=23歳：

「吾妻鏡」には有名な鶴岡社頭における静御前の舞に際し、重忠が銅拍子をもって伴奏を務めたと見える。
*与えられた伊勢国沼田御厨の地頭職で、自分の代官が支配地伊勢で詐欺・横領を働くと、自ら食を絶って謹慎するも、梶原景時に讒言されたため、鎌倉に赴いて疑いを晴らし、

奥州藤原滅亡1189=25歳：

源頼朝上洛・1190=26歳：

臨濟宗始・・1191=**27歳**：

源頼朝没・・1199=35歳：

*奥州征伐に先陣を務めて郎党の半数を失うほど奮闘し、恩賞として陸奥葛岡郷地頭職を与えられた。

*頼朝の死に際し頼家の将来を託されたが、重忠ははじめ足立遠元の女を娶り、小次郎重秀が生まれたが、のちさらに北条時政の女と結婚し、六郎重保が生まれた。この重保と北条時政の妻牧の方の女婿平賀朝雅との口論事件がきっかけとなり、時政・牧の方によって重忠父子討滅計画が進められ、

執権政治始・1203=39歳：

新古今集・・1205=41歳：

*稲毛重成の招きによって武蔵国から鎌倉に出てきた重保が、謀叛人として討たれ、また事情を知らずに軍勢百数十騎ほどを率いて菅谷館を出発して鎌倉に向かった重忠は、武蔵国の二俣川に至ったとき、北条義時以下、和田義盛・安達景盛らの数万の幕府軍に前途を遮られて合戦となり、激闘のち愛甲季隆の矢に当たって重忠は戦死し、その首級をとられた。また重忠以下、おもな一族郎等も自害し、畠山一族は滅亡した。